



特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）

出願人代理人

特許業務法人 湘洋内外特許事務所

様

あて名

〒 220-0004

神奈川県横浜市西区北幸2丁目9-10
横浜HSビル 7階

PCT
国際予備審査機関の見解書
(法第13条)
[PCT規則66]

発送日
(日.月.年)

22. 2. 2005

出願人又は代理人
の書類記号

MS190001

応答期間

上記発送日から 2 月以内

国際出願番号

PCT/J P 2004/004209

国際出願日

(日.月.年) 25. 03. 2004

優先日

(日.月.年) 27. 03. 2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl¹ G 02 B 21/00

C 12 M 1/34

出願人 (氏名又は名称)

株式会社エフェクター細胞研究所

1. ☒ 国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と ☒ みなされる。
☐ みなされない。

2. この 2 回目の見解書は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
☐ 第II欄 優先権
☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
☒ 第V欄 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
☐ 第VI欄 ある種の引用文献
☐ 第VII欄 国際出願の不備
☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。

いつ?

上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(e)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように?

法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお

補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第2章) 作成の最終期限は、
PCT規則69.2の規定により 27. 07. 2005 である。

名称及びあて先

日本国特許庁 (IPEA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

吉野 公夫

2V

8106

電話番号 03-3581-1101 内線 3229

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-18 ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 1-4, 7-10, 12-16 項、24.09.2004 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1-18 図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☒ 請求の範囲 第 5, 6, 11 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)

4. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

| | | | |
|----------------|-------|------------------|---|
| 新規性 (N) | 請求の範囲 | 1-4, 7-10, 12-16 | 有 |
| | 請求の範囲 | | 無 |
| 進歩性 (IS) | 請求の範囲 | | 有 |
| | 請求の範囲 | 1-4, 7-10, 12-16 | 無 |
| 産業上の利用可能性 (IA) | 請求の範囲 | 1-4, 7-10, 12-16 | 有 |
| | 請求の範囲 | | 無 |

2. 文献及び説明

文献1: J P 09-061360 A (三菱電線工業株式会社)

1997. 03. 07

【0023】～【0028】、【0031】～【0036】、図1、図2
(ファミリーなし)

には、通水路20を挟んで撮像カメラ4のレンズ部8の対向位置に光反射板24を設けて、該通水路20中の微生物を観察する水中顕微鏡が記載されている。

文献2: J P 2001-228404 A (株式会社ニコンエンジニアリング)

2001. 08. 24

【0009】～【0011】、【0020】、【0022】、図1 (ファミリーなし)

には、対物レンズ112を通してプローブ(検体)102aに照明光を照射する落射型顕微鏡において、該プローブを通り抜けた照明光をその後に配置した反射部材105で上記対物レンズに戻すものが記載されている。

文献3: J P 09-051792 A (株式会社ヒダン)

1997. 02. 25

【0001】、【0002】、【0004】、【0006】、図1 (ファミリーなし)

には、流路が形成された微生物培養観察装置が記載されている。

文献4: J P 05-027179 A (富士写真フイルム株式会社)

1993. 02. 05

【0004】、【0005】、【0016】～【0018】、図1 (ファミリーなし)

には、送光光学系の対物レンズ17として、受光光学系の対物レンズ19よりも開口数の小さいものを用いる走査型顕微鏡が記載されている。

また、観察対象物収納用構造体にこれを保持するための窪みを設けたものは、例えば

文献5: J P 07-098319 A (ベックマン株式会社)

1995. 04. 11

全文全図 (ファミリーなし)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

文献 6 : J P 3 0 5 6 6 8 0 U (片岡 久男)

1 9 9 8 . 1 2 . 0 2

全文全図 (ファミリーなし)

等において周知である。

そして、本願特許請求の範囲に記載されたもののように、落射照明光を反射する反射面を設けた第 2 の構造体を該落射照明光を透過するもので構成すること、所定の条件式 (1)、(2) を満足させるようにすることは、いずれも当業者が必要に応じて適宜に行うことのできる設計上の事項である。

- 1 国際出願の表示
- 2 出願人（代表者）
（識別番号）
氏名（名称）
あて名
国籍
住所
- 3 代理人
（識別番号）
氏名
あて名
- 4 補正命令の日付
- 5 補正の対象
- 6 補正の内容
- 7 送付書類の日数